

METHOD FOR RETRIEVING SUBSTITUTE MEDICINE AT THE TIME OF PRESCRIPTION AND DEVICE THEREFOR

Publication number: JP11203376 (A)

Publication date: 1999-07-30

Inventor(s): MOROZUMI SUSUMU; KANEDA YASUNORI; SHIOZAWA RINA +

Applicant(s): OKI MEDICAL SYSTEMS KK +

Classification:

- **international:** A61J3/00; G06F19/00; G06Q50/00; A61J3/00; G06F19/00; G06Q50/00; (IPC1-7): A61J3/00; G06F17/60; G06F19/00

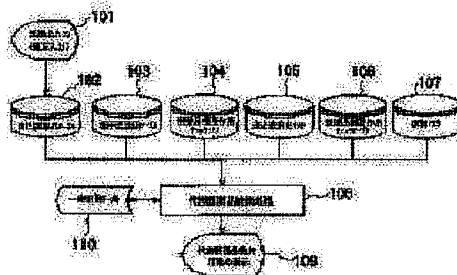
- **European:**

Application number: JP19980007352 19980119

Priority number(s): JP19980007352 19980119

Abstract of JP 11203376 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve maintainability and processing efficiency in the retrieval of a substitute medicine for a prescribed medicine having mutual actions. **SOLUTION:** A medical effect classification code (code of medicines predetermined for each classification of medicines) of medicines having the same medical effect as a prescribed medicine having mutual actions is extracted from a medicine mutual action check master 104, and temporarily stored in a temporary storage table 110. Then, the name of a disease having the same general name code as the prescribed medicine having the mutual actions is extracted from a proper disease name master 105, and the name of a disease pertinent to a patient is selected by a doctor. Then, a general name code corresponding to the selected disease name is extracted from the extracted general name codes of medicines having the same medical effect, the presence or absence of mutual actions of a prescribed medicine with a medicine which is likely to be taken at the same time is checked, and a substitute medicine without any mutual action is displayed on a display.



Data supplied from the *espacenet* database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-203376

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月30日

(51) Int.Cl.⁵
G 0 6 F 19/00
17/60
// A 6 1 J 3/00
識別記号
3 1 0

F I
G 0 6 F 15/42 M
A 6 1 J 3/00 3 1 0 K
G 0 6 F 15/21 3 6 0

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平10-7352

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月19日

(71) 出願人 591167740

株式会社沖メディカル・システムズ
東京都品川区西五反田1丁目31番1号

(72) 発明者 両角 進

東京都品川区西五反田1丁目31番1号 株
式会社沖メディカル・システムズ医薬事業
部内

(72) 発明者 金田 康則

東京都品川区西五反田1丁目31番1号 株
式会社沖メディカル・システムズ医薬事業
部内

(74) 代理人 弁理士 萼 経夫 (外3名)

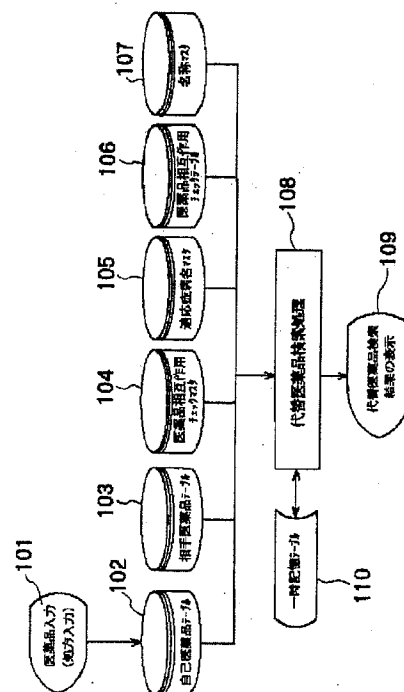
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 処方の際の代替医薬品検索方法及びその装置

(57) 【要約】

【課題】 相互作用を有する処方医薬品の代替医薬品検索のメンテナンス性・処理効率を向上させる。

【解決手段】 相互作用を有する処方医薬品と同じ治療効果の有る医薬品の薬効分類コード（以後、コードとは医薬品の分類形態ごとに予め決められた医薬品のコードを言う。）を医薬品相互作用チェックマスタ104から抽出し一時記憶テーブル110に記憶する。次に、前記相互作用を有する処方医薬品と同じ一般名コードを有する症病名を適応症病名マスタ105から抽出し、患者に該当する症病名を医師が選択する。そして、該選択した症病名に対応する一般名コードを前記抽出した同じ治療効果の有る医薬品の一般名コードの中から抽出し、処方する医薬品及び同時に服用する可能性の有る医薬品との相互作用の有無をチェックし、相互作用の無い代替医薬品を表示装置に表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 処方され、同時に服用する可能性のある医薬品に関し、相互作用が発現する可能性のある組み合わせの有無をチェックし、相互作用がある場合の代替医薬品を検索する方法であって、コード化された医薬品のデータベースに基づき、同時に服用する可能性のある自己医薬品に関し、相互作用チェックにより相互作用発現の可能性が指摘されたとき、自己医薬品と同じ薬効を有する同効医薬品群を、医薬品のデータベースから選択して一時記憶装置に記憶し、次に、処方を行おうとする医薬品の一般名で、症病名と一般名とが対でコード化されたデータベースを検索し、検索された複数の症病名の中から、適応症病名を特定することにより当該データベースを再度検索して抽出された一般名コードを一時記憶装置に記憶し、該一時記憶装置に記憶された一般名コード及び同効医薬品群の中から代替医薬品を選択し、代替医薬品と他の処方医薬品との相互作用チェックをさらにを行い、最終的に代替医薬品を決定して出力する処方の際の代替医薬品を検索する方法。

【請求項2】 一種もしくは複数種の自己医薬品を記録する自己医薬品データベースと、自己医薬品に対し相互作用が発現する可能性のある一種もしくは複数種の相手医薬品を記録する相手医薬品データベースと、医薬品相互作用に関するデータを記録するデータベースと、検索対象となる医薬品と同じ薬効を有する医薬品のデータベースと、病症状の治療に有効な医薬品の一般名を記録する適応症病名のデータベースと、検索の結果抽出された同効医薬品群及び症病名を記憶する一時記憶装置と、を含むことを特徴とする代替医薬品検索装置。

【請求項3】 相互作用のある医薬品を記録する医薬品相互作用データベース自己テーブル部と、自己医薬品に対し相互作用が発現する可能性のある、相手医薬品を記録する医薬品相互作用データベース相手テーブル部と、医薬品相互作用に関するデータを記録する医薬品相互作用データベースコメントテーブル部と、一種もしくは複数種の自己医薬品の相互作用の有無、代替医薬品の薬効分類及び一般名を医薬品相互作用データベースで検索して、当該データを記憶する一時記憶装置と、を含むことを特徴とする請求項2に記載の代替医薬品検索装置。

【請求項4】 自己医薬品または相手医薬品のそれぞれのデータには、レセプト電算処理システムマスターコード、医薬品の成分を表わす一般名コード、薬効分類コー

ドと、医薬品の構造式・薬理作用・剤型等により分類された各コードの内の複数のものが含まれることを特徴とする請求項2又は3に記載の代替医薬品検索装置。

【請求項5】 自己医薬品または相手医薬品のそれぞれのデータとして、レセプト電算処理システムマスターコード、一般名コード、薬効分類コードと、医薬品の構造式・薬理作用・剤型等により分類された各コードの内の、複数のものがコンピュータ読み取り可能な記録媒体に記憶されていることを特徴とする請求項2、3又は4に記載の代替医薬品検索装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、医療機関・病院・診療所・医院・保険薬局等において、処方情報の鑑査処理をコンピュータ上で行う処方鑑査システムに係り、特に、医師あるいは薬剤師が行う処方箋の発行や処方鑑査業務において代替医薬品の検索を効率的に行えるようにした代替医薬品検索方法及びそれに用いる装置に関する。

20 【0002】

【従来の技術】従来、医薬品を処方する場合には、医師または薬剤師が処方する医薬品の相互作用を考慮することが必要であるが、相互作用については、医師または薬剤師の持つ知識あるいは文書情報をもとに判断して処方を行わなければならなかった。そして、処方される医薬品に相互作用がある場合には、該当医薬品に代わる代替医薬品を捜す必要がある。ここで、代替医薬品とは、患者に処方する医薬品間で相互作用を有する医薬品の替わりに処方する医薬品のことであり、同じ治療効果を持ち、相互作用を有しない医薬品のことをいう。また、相互作用とは、2種以上の医薬品を併用したときに一方の医薬品がもう一方の医薬品の作用を強めたり、あるいは効能を弱めてしまう作用であり、併用を禁じられている医薬品の組み合わせも多数ある。しかし、膨大な医薬品数の中から相互作用を有する医薬品に対して全ての代替医薬品を把握することは不可能に近く、また、いちいち文書情報を確認することは大変手間のかかることであった。

【0003】

40 【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述のようにそれぞれの医薬品に対し、相互作用を有する医薬品の代替医薬品の選択を、医師または薬剤師の持つ知識あるいは文書情報の検索によって行うことは、医薬品数が多いにも多いため検索するまでに時間がかかってしまうこと等の欠点があった。そして、医薬品の相互作用をチェックする機能に連動して、代替医薬品を検索する方法あるいは装置については従来知られていない。

50 【0004】本発明は上記問題に着目してなされたもので、各医薬品に付される添付文書から抽出された医薬品に関する情報をコード化することにより、データの処理

時間を短縮し、相互作用を有する医薬品の代替医薬品を容易に検索することができる代替医薬品検索方法及びその装置を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】以後の説明において、処方もしくは調剤を行なおうとする医薬品の一種又は処方もしくは調剤が行われた医薬品の一種を自己医薬品と称し、自己医薬品と同時に服用する可能性のある一種もしくは複数種の医薬品を相手医薬品と称する。尚、相手医薬品には飲食物も含まれる。

【0006】上記問題を解決するために、請求項1の処方の際の代替医薬品を検索する方法に係る発明は、処方され、同時に服用する可能性のある医薬品に関し、相互作用が発現する可能性のある組み合わせの有無をチェックし、相互作用がある場合の代替医薬品を検索する方法であって、コード化された医薬品のデータベースに基づき、同時に服用する可能性のある自己医薬品に関し、相互作用チェックにより相互作用発現の可能性が指摘されたとき、自己医薬品と同じ薬効を有する同効医薬品群を、医薬品のデータベースから選択して一時記憶装置に記憶し、次に、処方を行おうとする医薬品の一般名で、症病名と一般名とが対でコード化されたデータベースを検索し、検索された複数の症病名の中から、適応症病名を特定することにより当該データベースを再度検索して抽出された一般名コードを一時記憶装置に記憶し、該一時記憶装置に記憶された一般名コード及び同効医薬品群の中から代替医薬品を選択し、代替医薬品と他の処方医薬品との相互作用チェックをさらにを行い、最終的に代替医薬品を決定して出力することを特徴とするものである。

【0007】上記問題を解決するために、請求項2の代替医薬品検索装置に係る発明は、一種もしくは複数種の自己医薬品を記録する自己医薬品データベースと、自己医薬品に対し相互作用が発現する可能性のある一種もしくは複数種の相手医薬品を記録する相手医薬品データベースと、医薬品相互作用に関するデータを記録するデータベースと、検索対象となる医薬品と同じ薬効を有する医薬品のデータベースと、病症状の治療に有効な医薬品の一般名を記録する適応症病名のデータベースと、検索の結果出力された同効医薬品群及び症病名を記憶する一時記憶装置とを含むことを特徴とするものである。

【0008】上記問題を解決するために、請求項3の医薬品相互作用チェック装置に係る発明は、請求項2の発明において、相互作用のある医薬品を記録する医薬品相互作用データベース自己テーブル部と、自己医薬品に対し相互作用が発現する可能性のある、相手医薬品を記録する医薬品相互作用データベース相手テーブル部と、医薬品相互作用に関するデータを記録する医薬品相互作用データベースコメントテーブル部と、一種もしくは複数種の自己医薬品の相互作用の有無、代替医薬品の薬効分

類及び一般名を医薬品相互作用データベースで検索して、当該データを記憶する一時記憶装置とを含むことを特徴とするものである。

【0009】上記問題を解決するために、請求項4の医薬品相互作用チェック装置に係る発明は、請求項2又は3の発明において、自己医薬品または相手医薬品のそれぞれのデータには、レセプト電算処理システムマスターコード、医薬品の成分を表わす一般名コード、薬効分類コードと、医薬品の構造式・薬理作用・剤型等により分類された各コードの内の複数のものが含まれることを特徴とするものである。

【0010】上記問題を解決するために、請求項5の医薬品相互作用チェック装置に係る発明は、請求項2、3又は4の発明において、自己医薬品または相手医薬品のそれぞれのデータとして、レセプト電算処理システムマスターコード、一般名コード、薬効分類コードと、医薬品の構造式・薬理作用・剤型等により分類された各コードの内、複数のものがコンピュータ読み取り可能な記録媒体に記憶されていることを特徴とするものである。

【0011】本発明は、医師あるいは薬剤師が行う処方箋の発行や処方鑑査業務の支援を行い、また、医療関連教育機関における教育実習にも用いられる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る代替医薬品検索方法及びその装置の実施の形態を添付図面に基いて説明する。

【0013】図1は、本発明の装置の一形態を示す構成図である。本発明に係る装置は図1に示すように、代替医薬品の検索結果を表示するための表示装置10と、患者を診療した結果から処方する医薬品を入力するための入力装置11と、中央演算処理装置及びメモリ等を含む処理部12と、あらかじめ用意された全ての医薬品に関するデータが作成記憶されているディスク13（記憶手段としては他に、CD-ROM14、フロッピーディスク15を使用することもできる。）と、医薬品に関するデータ、あるいは検索した代替医薬品に関するデータ等をプリントアウトするための出力装置16とから構成されている。

【0014】図2は、代替医薬品検索の処理に使用される各機能ごとのデータの構成、すなわちファイル構成を示しており、それぞれがメモリ上では区分されてファイルとして記憶されている。それぞれのファイルはデータベースを構成し、自己医薬品テーブル102、相手医薬品テーブル103、医薬品相互作用チェックマスタ104、適応症病名マスタ105、医薬品相互作用チェックテーブル106、名称マスタ107がある。自己医薬品テーブル102には、予め医薬品入力101の過程により入力された処方される医薬品（自己医薬品）の医薬品マスターコード（後述する）が記憶され、相手医薬品テーブル103には、処方履歴を基に抽出した患者が服用

している医薬品（相手医薬品）及び処方される医薬品の医薬品マスターコード、調剤日、医療機関名が記憶される。医薬品相互作用チェックマスタ104には、予め医薬品固有の情報が全て記憶され、適応症病名マスタ105には、それぞれの病症状に効果があるとされる医薬品が症病名コードと一般名コードとの対で記憶されている。医薬品相互作用チェックテーブル106には、医薬品間の相互作用の有無をチェックする情報が記憶されており、自己医薬品に対する自己テーブル部401と相手医薬品に対する相手テーブル部402（図4を参照）とを含む。また、名称マスタ107には、それぞれの症病名と症病名コード、薬効分類名と薬効分類コード、及び医薬品の相互作用の結果をコメントとして提供するための文字情報がコメントコードと共に記憶される他、医薬品相互作用の機序が文字情報として相互作用機序コードと共に記憶されている。

【0015】前記のファイルに基づく代替医薬品検索処理108の過程では、まず、上記入力データ及び記憶データを基に、自己医薬品及び相手医薬品の一般名コード、薬効分類コード、BOXコード（いずれも後述する）を医薬品相互作用チェックマスタ104から取得して、処方医薬品相互作用チェックマスタSの形態（図3を参照）で、入力された処方医薬品の医薬品マスターコードに対応する医薬品名称、一般名コード、薬効分類コード、BOXコードが一時記憶テーブル110に記憶され、自己医薬品の前記各コードに対して相互作用を有する全ての医薬品（相手医薬品、相手飲食物等）と相互作用コメント等が処方医薬品相互作用チェックテーブルTの形態（図4を参照）で一時記憶テーブル110に記憶される。図4に示す処方医薬品相互作用チェックテーブルTの形態では、自己テーブル部401には、相互作用を有する医薬品の一般名コード、薬効分類コード、BOXコードが記憶され、相手テーブル部402には、前記自己テーブル部のそれぞれのコードと相互作用を持つ医薬品の一般名コード、薬効分類コード、BOXコードが記憶される。また、コメントテーブル部403には、それぞれの相互作用に対するコメントと重篤区分に対応するレベルコードと相互作用の機序コードが記憶される。そして、前記相手テーブル部402に記憶されたコードの中に、前記医薬品相互作用チェックマスタ104から取得した相手医薬品のコードが存在しているかをチェックし、存在している場合には、その相手医薬品が相互作用を有する医薬品と特定される。

【0016】次に、前記相互作用を有すると特定された医薬品と、同一の薬効分類コードを持つ医薬品を医薬品相互作用チェックマスタ104から抽出し、一時記憶テーブル110に記憶させ、同一の一般名コードを持つ症病名を適応症病名マスタ105から抽出し、抽出された症病名の中から患者の適応症病名に該当するものを特定して再度前記適応症病名マスタ105を検索し、抽出さ

れた一般名コードを一時記憶テーブル110に記憶させる。そして、前記抽出した同一の薬効分類コードを持つ医薬品の中から前記一般名コードと同一の一般名コードを抽出する。代替医薬品検索結果の表示109では、代替医薬品検索処理108の過程で検索した代替医薬品の医薬品名が表示される。

【0017】ここで、本発明に係る医薬品に関連する各コードについて説明する。医薬品マスターコードとは、厚生省により制定されている医薬品を特定するためのレセプト電算処理システムマスターコードであり、薬効分類コードとは、通産省により制定されている医薬品の効能効果を階層化して分類した日本標準商品分類コードである。そして両コードとも標準化されたコードとなっている。また、医薬品は構成成分によって全て一般名が制定されており、本発明では剤型・適応病症状等を考慮した分類として一般名コードを設定している。更に、医薬品添付文書において医薬品の構造式・薬理作用・剤型等による表現が多いことから、この表現を一つの群としてとらえ辞書化してそれぞれの群をBOXコードとして設定した。

【0018】前記の本発明に関連する医薬品の分類形態を図5に示す。全ての個々の医薬品（W）が医薬品マスターコードで特定され、構成成分・剤型・適応病症状等の分類により制定されている一般名（R）に一般名コードが付与されている。更に、効能効果を共通とする一般名の集合である薬効分類（Q）に薬効分類コードを制定し、医薬品の共通した構造式・薬理作用・剤型等の集合であるBOX（P）にBOXコードを付与している。それぞれのBOXは薬効分類と該薬効分類に属さない一般名から構成される。

【0019】代替医薬品検索方法の実施の一形態を図6に示す検索手順に添って説明する。ただし、ここでは処方入力された自己医薬品と処方履歴等から同時に服用する可能性のある医薬品との相互作用チェックが行われ、その結果相互作用の可能性のある医薬品が処方入力した医薬品の中に存在したものとし、当該医薬品を医薬品Xとして説明をする。検索前処理801では、ステップ810において、処方される医薬品として入力装置11に入力された自己医薬品の医薬品マスターコード及び処方履歴等から抽出された相手医薬品の医薬品マスターコードを基に、一般名コード、薬効分類コード、BOXコードを医薬品相互作用チェックマスタ104から検索して（ステップ811）、処方医薬品相互作用チェックマスタSの形態（図3を参照）で自己医薬品及び相手医薬品のそれぞれのコードを確定する。

【0020】代替候補医薬品の絞り込み802では、ステップ820において、医薬品Xと同じ薬効分類コードを有する医薬品を医薬品相互作用チェックマスタ104から検索して（ステップ821）、医薬品Xの同効医薬品抽出が行われる。抽出された医薬品は、同効医薬品群

として一時記憶ファイル110に記憶される。また、ステップ823において、医師により患者の病症状が特定され適応症病名マスタ105から一般名コードの抽出が行われる。該抽出は、まず医薬品Xと同じ一般名コードを持つ症病名が、症病名と一般名とが対でコード化された適応症病名マスタ105から抽出される(ステップ824)。そして、抽出された症病名は、表示装置10に表示され、患者の病症状に相当する症病名を医師が選択し特定する(ステップ825)。特定された症病名の症病名コードに対応する一般名コードが適応症病名マスタ105から抽出され(ステップ826)一時記憶装置110に記憶される。更に、ステップ827において、前記ステップ826で抽出された一般名コードが、前記ステップ821で検索された医薬品Xと同じ薬効分類コードを有する同効医薬品群の中に存在するか否かの検索を行い(ステップ828)、医薬品Xの代替候補医薬品の抽出がなされる。抽出された代替候補医薬品は一時記憶装置110に記憶される。

【0021】代替医薬品の特定803では、ステップ830において、前記ステップ827で抽出された代替候補医薬品と処方入力された自己医薬品、及び処方履歴等から同時に服用する可能性のある医薬品との、相互作用チェックを全ての組み合わせについてコンピュータ上で行い、ステップ831において、相互作用チェックの結果、相互作用の無い代替候補医薬品と相互作用の有る代替候補医薬品とが容易に判別できるように、相互作用の有る代替候補医薬品に(相)マークが付されて表示装置10に表示される。そして、医師が、相互作用の無い医薬品の中から治療に最適な医薬品を選択し、医薬品Xの代替医薬品が特定される。尚、上記の表示画面及び検索過程におけるデータは、必要に応じて接続された出力装置16からプリントアウトすることができる。

【0022】前記ステップ824(図6参照)で、適応症病名マスタから抽出される同一の一般名コードを持つ症病名が、表示装置10に表示された一形態を図7に示す。図7に表示された形態では、医薬品オゼックス601が医薬品Xに該当し、オゼックス601と同じ一般名コードを持つ症病名が表示領域602に列挙されている。なお、図7に記載された医薬品は、商品名あるいは登録商標である。そして、この列挙された症病名の中から患者の病症状に適應するものを医師が特定する。図7では、膀胱炎が特定されている。

【0023】また、前記ステップ830で代替候補医薬品と他の処方医薬品等との相互作用チェックが行われ、その結果をステップ831で表示装置10に表示した一形態を図8に示す。患者の症病名(適応症病名)である膀胱炎が表示領域701に表示され、代替候補医薬品名が表示領域702に列挙されている。相互作用のチェック結果の表示は、相互作用を有する代替候補医薬品名の左側に(相)703を表示して知らせる。(表示領域7

02中の(内)704は医薬品が内用薬であることを示す。)なお、図8に示される医薬品は、いずれも商品名あるいは登録商標である。

【0024】本発明は、薬物治療のスタート時点である処方箋発行の段階に着目するものであり、診療行為の一環として医師が発行しようとする処方箋内はもとより他医療機関・他診療科の処方により患者が服用している可能性の有る医薬品がわかっている場合にはその医薬品を含めそれらの医薬品間の相互作用の有無をチェックし、チェックの結果相互作用の可能性が認められた相互の医薬品についてそれぞれ同じ効果の期待できる相互作用の可能性の無い代替医薬品を検索し、処方箋を発行した医師による処方変更の支援を行うことにより、調剤の現場に至る以前に薬物治療に伴う事故の未然防止に寄与し有効な薬物治療が可能となる。更に、本発明を教育実習に適用した場合には、医療の現場における処方の実習が模擬的に体験できるので、学生にとって有効である。

【0025】

【発明の効果】請求項1に係る発明では、コード化された医薬品のデータベースに基づき、相互作用発現の可能性が指摘された医薬品と同じ薬効を有する同効医薬品及び代替医薬品の候補となる医薬品一般名を、それぞれのデータベースから検索して一時記憶装置に記憶させ、該一時記憶装置に記憶したデータの中から代替医薬品を選択する方法を取ることから、処理するデータの量を少なくすることができ処理時間も短縮することができるため、該当する医薬品のデータを短時間で画面出力させることができる。また、選択された代替医薬品に関しては更に相互作用チェックが行われ、相互作用の有無を表示することから、確実に安全な医薬品の処方を行うことができる。

【0026】請求項2に係る発明では、医薬品相互作用に関するデータを記録するデータベースと、自己医薬品データベースと、相手医薬品データベースと、同じ薬効を有する医薬品データベースと、適応症病名データベースと、前記データベースの中から検索したデータを一時記憶しておく一時記憶装置とを有していることから、処方代替医薬品の検索を容易に行うことができる。

【0027】請求項3に係る発明では、請求項2に係る発明において、相互作用のある医薬品を記録している医薬品相互作用データベースに自己テーブル部と相手テーブル部とコメントテーブル部を有し、また、前記医薬品相互作用データベースから検索した自己医薬品の相互作用を記憶しておく一時記憶装置も有することから、いずれの場合にも検索時には必要な部分だけを検索すればよくデータの処理時間を短縮することができる。また、それぞれのデータテーブルから検索したデータをプリントアウトした時に見易いため事務処理の面でも時間を短縮することができる。

【0028】請求項4に係る発明では、請求項2又は3

に係る発明において、医薬品にマスターコード、一般名コード、薬効分類コード、BOXコードを付与して分類したことから、データベース全体がコンパクト化できメンテナンスの精度を向上させることができるとともに処理効率も向上させることができる。また、行政により標準化された医薬品マスターコードと薬効分類コードを使用しているので、医療現場で活用しやすいとともに、患者に対して安全で有効な医薬品を提供できる。

【0029】請求項5に係る発明では、請求項2、3又は4に係る発明において、医薬品に関連するそれぞれのコードを、機械読み取り可能な記憶媒体（フロッピーディスク、CD-ROM、テープ等の記憶媒体）、に記憶させたことにより、容易に持ち運びできると共に、必要な時に簡単にデータを取り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の医薬品相互作用チェック方法及びその装置を示す構成図である。

【図2】本発明の医薬品相互作用チェック方法を示す構成図である。

【図3】処方医薬品相互作用チェックマスタの形態を示す図である。

【図4】処方医薬品相互作用チェックテーブルの形態を示す図である。

*【図5】本発明に関連する医薬品の分類形態を示す図である。

【図6】代替医薬品検索方法の実施の一形態を示す図である。

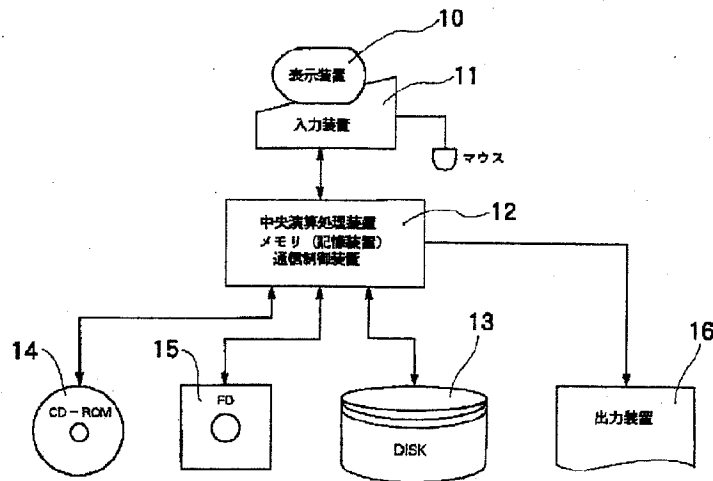
【図7】相互作用発現の可能性を有する医薬品と同じ一般名コードを持つ症病名が画面表示された一形態を示す図である。

【図8】代替候補医薬品の相互作用チェック結果が画面表示された一形態を示す図である。

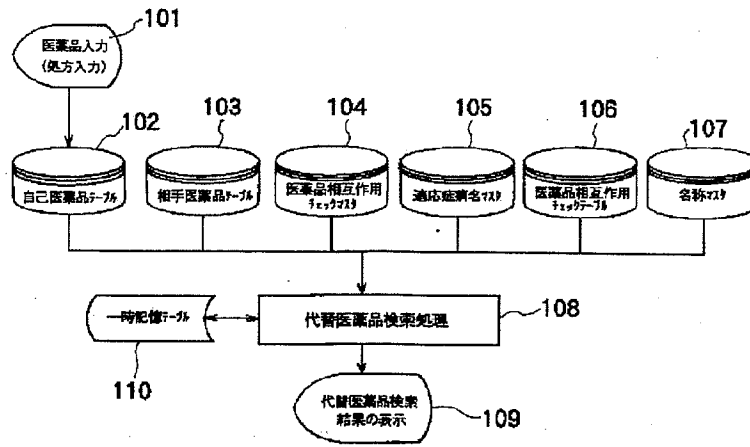
【符号の説明】

- 101 医薬品入力過程
- 102 自己医薬品テーブル
- 103 相手医薬品テーブル
- 104 医薬品相互作用チェックマスタ
- 105 適応症病名マスタ
- 106 医薬品相互作用チェックテーブル
- 107 名称マスタ
- 110 一時記憶テーブル
- 108 代替医薬品検索処理
- 109 代替医薬品検索結果の表示
- 401 自己テーブル部
- 402 相手テーブル部
- * 403 コメントテーブル部

【図1】



【図2】



【図3】

S

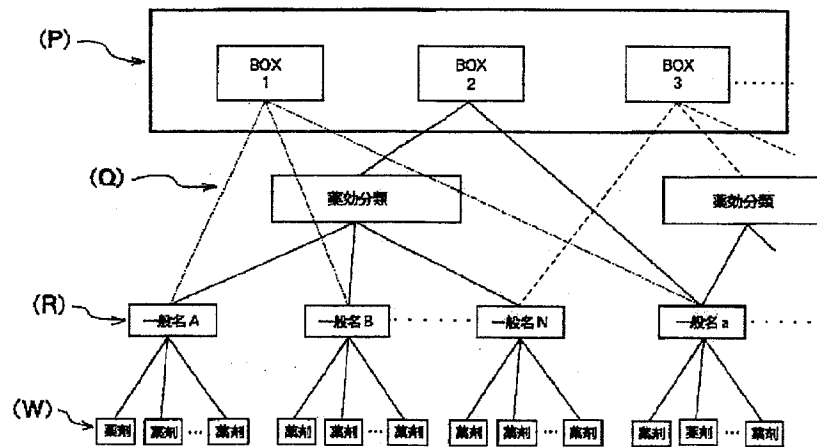
医薬品マスコード (レセプト電算処理コード)	医薬品名称	一般名コード	薬効分類 コード	BOXテーブル				
				BOX-①	BOX-②	BOX-③	BOX-⑥

【図4】

T

自己テーブル部		相手テーブル部		コメントテーブル部		
自己区分	自己医薬品	相手区分	相手医薬品・ 相手数食物 等	相互作用コメント	重篤区分	相互作用 順序
一般名	《一般名コード》	一般名	《一般名コード》	相互作用コメントコード	重篤レベル コード	順序コード
薬効分類	《薬効分類コード》	薬効分類	《薬効分類コード》			
BOX	BOXコード	BOX	BOXコード			
		自己コメント	自己コメント (数食物 等)			

【図5】

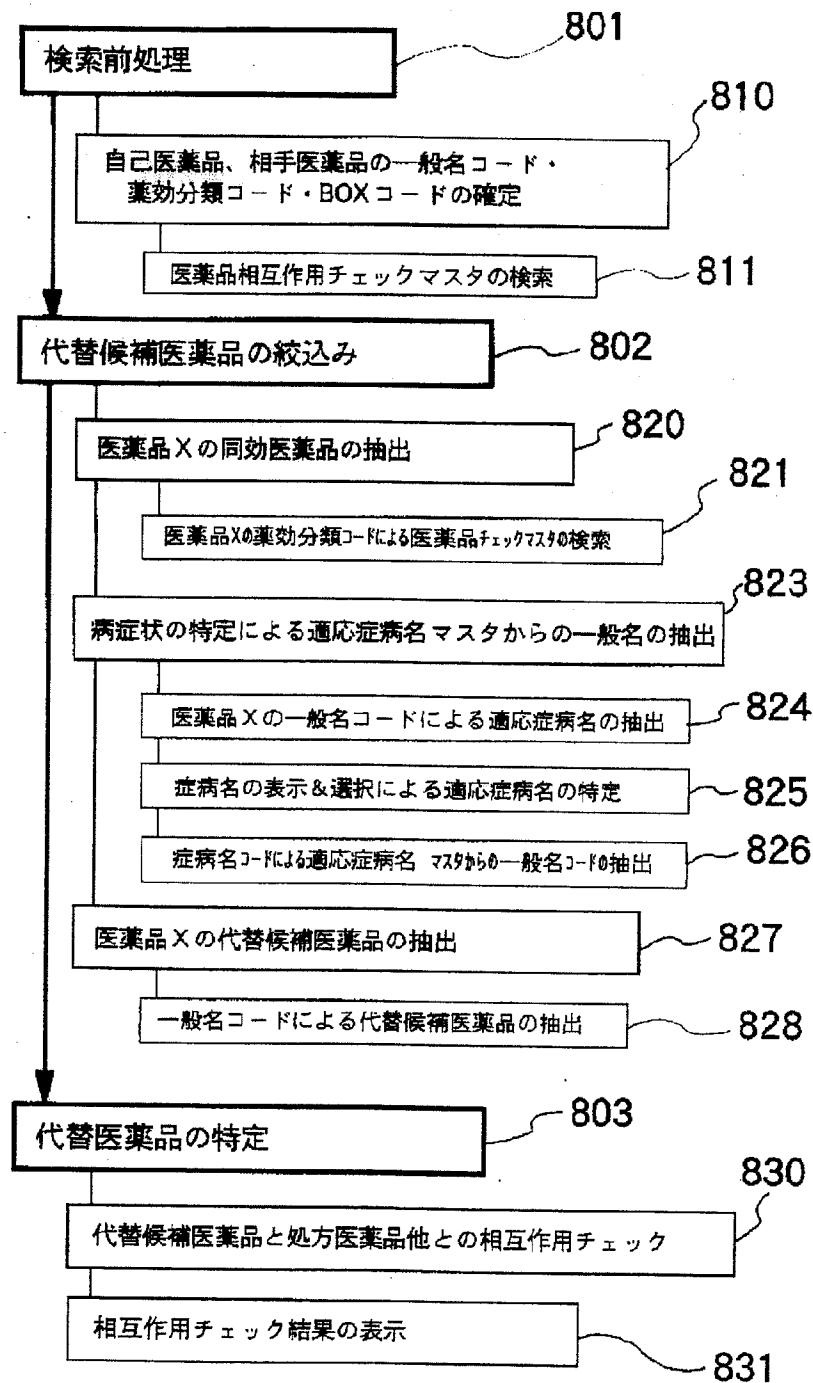


【図7】

Figure 7 shows a screenshot of a medical software interface. The interface is divided into several sections:

- Top Section:** Contains fields for "処方入力" (Prescription Input), "患者・本人" (Patient/Person), and "処方日 平 09.12.08" (Prescription Date: 09.12.08).
- Left Section (601):** A large text area containing the text "ホルタレン 分×3" (Holtaren 3x).
- Right Section (602):** A list of diseases with checkboxes, numbered 1 through 17:
 - 1 喉頭腫瘍
 - 2 喉頭がん
 - 3 前立腺炎
 - 4 副鼻腔炎
 - 5 扁桃炎=扁桃周囲炎
 - 6 骨髄炎
 - 7 肺炎
 - 8 胆のう炎
 - 9 子宮付属器炎
 - 10 副睾丸炎
 - 11 麦粒腫
 - 12 急性乳腺炎
 - 13 ひょう疽
 - 14 涙のう炎
 - 15 眼瞼炎=眼瞼縁炎
 - 16 慢性気管支炎
 - 17 気管支拡張症
- Bottom Section:** Contains buttons for "取消" (Cancel), "選択" (Select), "窓口" (Window), "No 2", "Esc 取消" (Esc Cancel), "F8 詳細" (F8 Detail), and "F 12 完了" (F 12 End).

【図6】



【図8】

処方入力		00 00	社保・本人		処方日 平 09.12.08	
01:01			1222		金 10%	
医師 △△ △△ 内		間効薬品管理				
○ ○ ○		適応症		肺炎		
○ ○ ○		病名				
○ ○ ○		薬効名		合成抗菌剤 ビリドンカルボン酸系製剤		
601 ボルタレン 分×3		31 (内)	ナリスロジカピセル	250mg	錠	702
		32 (内)	ノボステノン錠	600mg	錠	
		33 (内)	ビペロゲート錠	250mg	錠	
		34 (内)	ビリオダン錠	250mg	錠	
		35 (内)	フロロエース錠	250mg	錠	
		36 (内)	ペビミドール錠	250mg	錠	
		37 (内)	ヨウジクス錠	500mg	錠	
		38 (内)	ヨウジクス錠	250mg	錠	
		39 (内) (相)	アスデフェ錠	100mg	錠	
		40 (内) (相)	オゼックス錠	75mg	錠	
		41 (内) (相)	キサフロール錠	200mg	錠	
		42 (内) (相)	キサフロール錠	100mg	錠	
		43 (内) (相)	クラビット細粒	100mg	錠	
取消		選択		窓口費		No 31
						Esc 中止
						F5 印刷
						F8 開始
						F11 相互
						F12 置換
						704 703

フロントページの続き

(72)発明者 塩沢 利奈
 東京都品川区西五反田1丁目31番1号 株
 式会社沖メディカル・システムズ医薬事業
 部内